

## 1 現状

◆**社会動態**：若い世代の転入者数の減少を主な要因として社会減少が継続

H29：▲3,368人 ⇒ R3：▲2,485人 ※外国人含む（出典：長崎市統計年鑑）

- ・転入、転出の主な理由は「転勤」が最も多く、次いで「結婚または離婚」、「就職」が続く。
- ・生活する上で重要視するものは、転入者、転出者共に「魅力ある仕事」「買い物利便性」。
- 次いで転出者では「家賃の安さ」、転入者では「交通手段の利便性」。

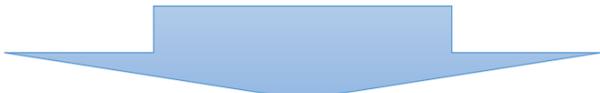
（出典：長崎市移動動向調査[R1]）

◆**自然動態**：若い世代の減少に伴う出生数の減少を主な要因として自然減少が拡大

H29：▲2,089人 ⇒ R3：▲2,905人 ※外国人含む（出典：長崎市統計年鑑）

- ・合計特殊出生率はH29に1.50まで改善したが、その後減少傾向でR2は1.37（長崎県全体1.64）
- ・約38%の市民が、子どもを増やすためには経済的負担軽減が必要と回答

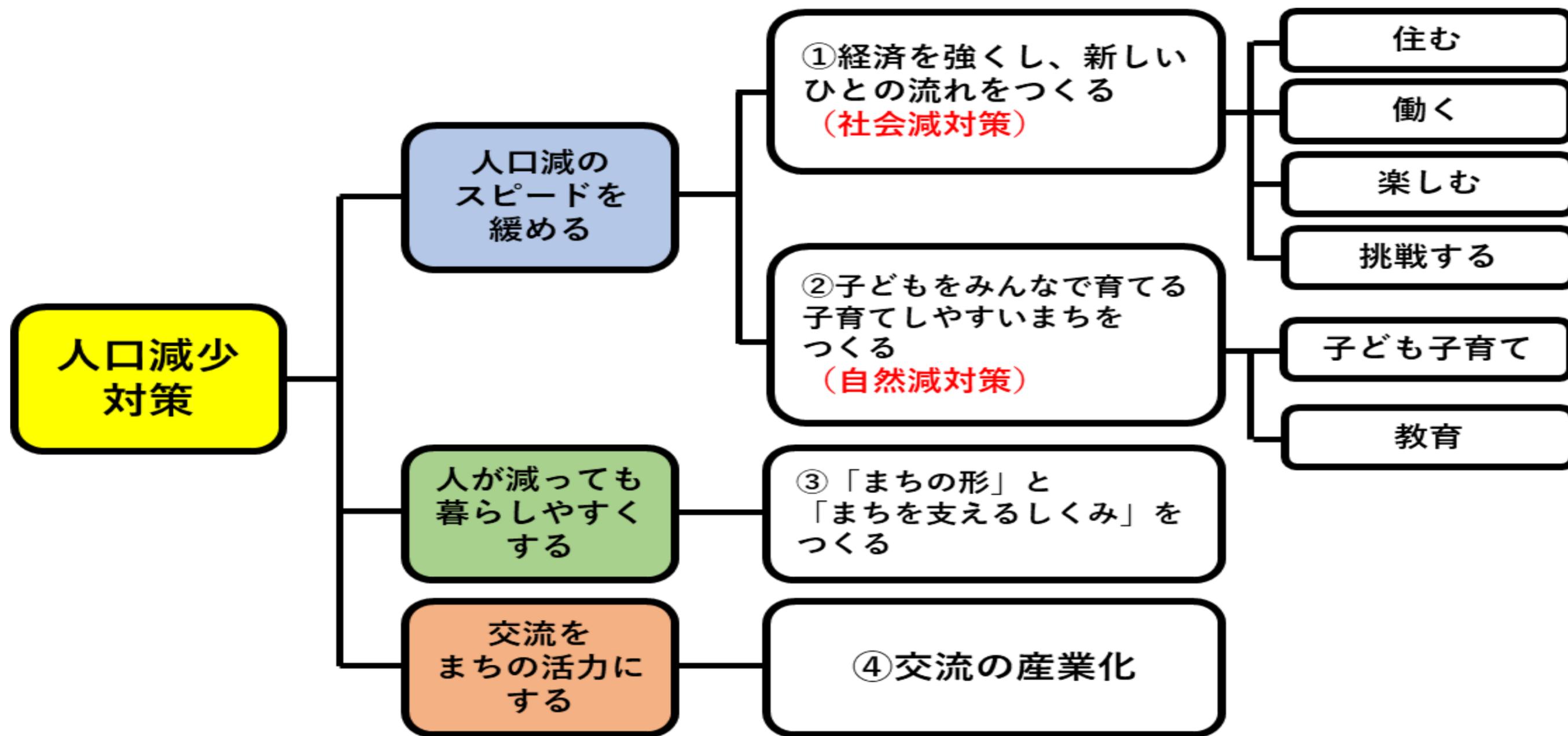
（出典：長崎市結婚・妊娠・子育てに関する意識調査[H30]）



人口減少に歯止めがかかっていない：転出超過数[R4～R2]全国ワースト2位、[R1,H30]同1位

（出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」）

## 2 対策の基本的な考え方



## 3 特徴的な施策

### ① 経済を強くし、新しいひとの流れをつくる取組み

- 新産業の種を育てるプロジェクト（スタートアップ支援やオープンイノベーションなど）
- 移住促進
- 住みよかプロジェクト（官民による若者や子育て世帯向けの住宅供給など）
- 長崎×若者プロジェクト（若者がチャレンジできる場・楽しむことができる場の創出）

### ② 子どもをみんなで育てる子育てしやすいまちをつくる取組み

- こども元気プロジェクト（全天候型子ども遊戯施設の整備など）
- 長崎のもざき恐竜パーク（恐竜博物館とこども広場を中核とする複合施設）の整備
- 時間・場所の切れ目ない子育て支援（子ども医療費助成、保育所等待機児童ゼロ、赤ちゃんの駅認定など）

### ③ 「まちの形」と「まちを支えるしくみ」をつくる取組み

- まちをつなげるプロジェクト（持続可能な公共交通の仕組みづくり、超高速インターネット回線の全市的な整備）
- 市役所新化プロジェクト（新市庁舎の建設、ICT化等による市民サービス向上・業務効率化）
- 地域コミュニティの仕組みづくり（地域コミュニティ連絡協議会の設立支援）、行政サテライト機能再編成

### ④ 交流の産業化を図る取組み

- まちMICEプロジェクト（出島メッセ長崎の開業効果・MICE開催効果をまち全体に波及させる取組み）
- まちぶらプロジェクト（まちなかの魅力・回遊性向上）
- 陸の玄関口（長崎駅）、海の玄関口（松が枝国際観光船埠頭）の整備
- 長崎市DMOの形成・確立